

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572007839		
法人名	医療法人寿光会		
事業所名	くろーぷほーむ「こさか」		
所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上前田11-16		
自己評価作成日	令和元年10月5日	評価結果市町村受理日	

一日一笑をもとに入居者が笑顔で過ごせるよう、また、その人らしさを大切に一人一人に合ったゆとりある介護を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な環境で、ゆったりと和気あいあいと過ごすことができる。利用者の思いを大切に、自由な生活を支援している。事業所の配慮により、家族は気軽に立ち寄りやすく、協力体制により利用者一人ひとりの馴染みの地域や人との関係継続を図っている。事業所内は明るく、清潔が保たれている。職員は意欲を持って働きやすい環境となっており、定着、サービスの質につながっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年11月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

he		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開業時からの理念を元に毎月の会議で目標を決め実践につなげている。	理念について立ち戻り話し合う場があるが、ゆとりのある、笑顔がある生活という根本的な思いは変わらず開業時からの理念を掲げている。その時の利用者、事業所のニーズに合わせ会議で話し合い、振り返りながら理念を具体化した目標を毎月掲げ実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し川掃除や地域行事に参加させていただいている。避難訓練やボランティアなどご協力させていただいている。	自治会に加入し、総会や行事に積極的に参加している。花見やタンボ会には利用者も一緒に参加し、地域の一人として交流を図っている。散歩の際に声を掛けてくれるなど普段の生活でも近隣の人達とふれあう機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議に地域の方も参加して頂いている。何か相談がある時はいつでも対応出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価や入居者状況、行事などその都度報告させていただいている。又、頂いた意見、要望などは職員全員で共有しサービス向上に活かしている。	自治会や民生委員、町、家族などが参加し事業所の取り組みや課題について多角的な視点で話し合いを行っている。家族については毎回違う方が参加され事業所と家族の一体化を図っている。委員が参加しやすいよう開催日時を配慮している。会議の中で避難訓練について見学したいと話があり参加、また助言から各居室にタッチライトの設置に至った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	協力関係を築くようその都度報告し意見をいただいている。何かあった時は、相談にのって頂いている。	包括と情報のやり取りを行い、入居状況や徘徊する利用者について実情や問題解決に向けて一緒に取り組むなど相互関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開いて何が身体拘束にあたるのか理解するよう取り組んでいる。	事例はなく、研修やミーティングで振り返りを行っている。利用者の認知症による危険や様々な行動の出現がスピーチロックにつながらないよう、管理者は日々、利用者、家族の立場から職員に問いかけ、安全を確保しながらも自由な暮らしを支援できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加、又ホーム内でも研修を行い日々の観察し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象の方がおられた時は役場へ相談したり研修に参加し理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何か不安や疑問はないかお聞きし、その都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族に参加して頂き意見をいただいている。又面会時や行事開催時にも要望を伺っている。	運営会議では毎回異なる家族に参加してもらい実情を伝えるとともに意見を聞く努力をしている。家族の意見から行事を日曜日に開催したり、また急な要望についても対応できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの要望については、管理者がその都度法人本部に報告し、可能な限り意見を取り込んで頂いている。	ミーティングや日常的に意見を話しやすいようコミュニケーションを図っている。現場職員の意見を取り入れ、エアコン、手摺りの設置、ストーブの柵など環境整備を行い働きやすい環境作りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の努力を把握している。本部へも伝えるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外部研修会参加できるよう努めている。会議時報告会をもうけて職員全員が共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会で情報交換を行っている。又、職員も、参加出来る研修には、出席して頂き交流できている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談やホームを見学して頂いた際に、不安や要望を伺い安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安やこれまで頑張ってきた事を受け止め、ご意見や要望を伺いながら関係づくりに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の出来る所を手伝って頂いたり、寒くないかなど心配して頂いたりしながら、家族のような関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換を密にし何かあった場合は、協力して頂きながら信頼して頂けるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	床屋やお祭りなど出来るだけ本人の希望される場所に行けるよう環境づくりに努めている。	毎日家族からの電話がある利用者もいる。また月1回、送りは事業所で、帰りは家族対応で自宅に戻られる利用者もいる。足痛などで帰宅が困難な時は、家族に事業所へ来てもらい一緒に食事をし過ごしてもらうなど、家族、本人の状況を勘案しながら関係継続の支援をしている。馴染みの床屋、盆、正月、墓参りなど暮らしの中で大切にしてきた人や事柄などを把握し対応している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々を尊重しつつ孤立しないよう努めているが支援不足と思われる時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も安心して生活出来る様次の施設のケアマネさんとの引継ぎを行ったり、相談を頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や生活の様子を観察させて頂きながら思いに添えるよう努めている。	言葉に表すことが難しくても、行動や表情から思いや意向を把握し、申し送りや連絡帳で共有している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や本人の会話を何度も聞いたりしながら把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態をよく観察しつつ最近の状態について申し送りや連絡帳から把握し一人一人の状態に反映したケアとなるよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当を決めミーティング等で意見出しあい、ご家族からご意見を伺いながら介護計画を作成している。	担当制としており、担当がモニタリングを行うも、ミーティングで全体でアセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。担当が、毎月家族へ手紙で生活の様子を伝え、家族からの意見や要望を引き出す努力をし介護計画に反映している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングや日々の生活の様子など職員全員からの意見を取り入れながら介護計画のの見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力もお借りしながら行事を行ったり、地域行事に参加させて頂いたりしているが、まだ不足なのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様、ご家族の希望を尊重している。かかりつけ医、薬局の再行の際は相談させて頂いてから決めている。	かかりつけ医の継続を行っている。家族対応時も日常の把握している職員が同行している。基本的には職員が対応しているが、状況によっては家族に同行してもらい共有している。医療連携の看護師が週1回訪問しており、相談や助言を受けることができる。また24時間連絡が取れる体制となっている。職員は連絡帳や個人チャートで受診状況を共有、家族には電話や手紙で報告し共有を図っている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師に状態を説明、報告している。又、受診の相談や助言を頂いている。担当看護師の直通の電話もあり気軽に相談できる。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換に努めている。緊急時に対応できる総合病院と契約している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご家族と話しあっている。法人内に医院、老健があるためスムーズに対応できるよう取り組んでいる。	看取りの対応はしていない。契約時に、事業所のできることを指針を通して説明している。家族の意向を確認しながら、事業所に対応し得るケアを行っている。状況変化に応じ、家族と話し合い病院、施設への移設などの対応を行っている。	慣れ親しんだ場所で過ごさせたいという家族のニーズもあるため、職員の教育、医療連携を含めた体制作りや検討の機会に期待したい。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年はまだ行ってないが、定期的に消防署に依頼し講習を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの元避難訓練、水害の訓練も行っている。	火災、水害など想定される避難訓練を実施している。同法人施設に避難した経緯もある。訓練を実施し、また運営推進会議などでも意見を聴取しスロープを広くしたり、協力体制の整備を行っている。災害に備えた備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応として心がけているがきつい言葉や配慮にかけた声かけが聞かれる事もある。	ミーティングで勉強会を行っている。利用者への言葉の内容や語調など、尊厳やプライバシーを損ねないよう日常的に確認し対応している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な自己決定が出来る様おやつ時や衣類等促している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大事にして、起床時間をずらすなど、覚醒されたところへ声がけし、遅くなっても、食事を摂って頂くなど配慮している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを心がけつつ、なるべくその方の希望を尊重しながら支援させて頂いている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話しながら、ご本人の好みの物を聞いたり、身体の状態を考慮しながら、食べやすさを工夫している。又、一緒に片づけなども行って頂いている。	テーブル拭きや茶碗拭き、下膳、山菜の皮むきなど利用者個々の力を活かし、一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる。焔で取れた新鮮な野菜などを焼いて食べたり、夏祭りやタンポ会、花見の行事食や外食などを取り入れている。粥や刻み、とろみなどの食事の形態に配慮し、体調不良などにより摂取量が少ないときは高カロリー食品の提供をしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態を把握出来るように食事摂取量や、水分摂取量を確認したり、個々に合わせて、きざみやお粥など提供させて頂いている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯間ブラシなどを使用して磨き残しを介助させて頂いたり、本人の能力に応じて促し方も工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のサインや、排泄時間を把握し、トイレで排泄出来るよう支援している。失禁が少ない時には布パンツを使用するなどして工夫している。	定時のトイレ誘導ではなく、ノートで個々のその日の状態を把握し誘導している。自立のため一人ひとりに合わせた排泄用品を使用している。個別の排泄支援により、リハビリパンツから布パンツに移行できた利用者もいる。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、便意を少しでも感じるような方には水分を多く摂って頂いたり、ヨーグルトやヤクルトなど食事時にお出ししたりして工夫している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜の入浴から勤務体制や、入居者レベルに合わせて昼の入浴に変更した事もあり希望の時間には対応出来なくなったが、入りたくない気持ちがある場合は日にちをずらすなどして対応させて頂いている。	利用者のADLの低下に伴い、安全に配慮し日勤帯での入浴に変更した。利用者は在宅時にデイサービスなど利用されていたこともあり抵抗はなかったとのこと。3日に1回、週2～3回入浴の機会がある。入浴拒否時は、時間をずらすなどし対応している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時間に休めるよう、お声がけをしたりして支援している。また、毎日昼寝の習慣のある方のお部屋は常に室内の温度調整をして対応させて頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬について分からない時には、かかりつけ医や、薬局、医療連携の看護師に相談し、理解するよう努めている。薬の変更後、状態の変化があった場合は報告して指示を頂いている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の好みの物を購入して、引き続き食べて頂けるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅へ行けるように家族と日にちの調整を行い外出、外泊の支援をしたり、行事の日を早めに連絡して外出時の同行の協力をして頂いたりしている。	花見や外食、買い物、自宅など家族の協力のもと実施している。床屋や近隣の保育園に勤めている知人に会いに行くなど、一人ひとりの思いを汲み取り支援している。	利用者のADLの低下もあり外出の機会が減っている。外出支援のメリットを勘案しながら、重度化しても移動の配慮など方法を模索し一人ひとりが外出を楽しめる支援に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についてはご家族に管理して頂き、御本人が希望する場合は、立て替えて購入させて頂いている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日電話をとりついでいる。御本人が希望する際には代理でかけてご本人と話して頂いている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清潔を保てるように汚れがあった場合はすぐに清掃を行っている。不快に感じる事が無いよう手作りの作品を飾ったりして季節を感じて頂けるように工夫したりしている。	日中、ホールで過ごす利用者が多く、明るく清潔に保たれている。ホールや廊下の至る所に椅子などを置き、その日の気分で過ごしたり、動線上一息入れたりなど安全にも配慮されADLの維持を図っている。居室の前には季節を感じることでできる手作りの飾り物が飾られていた。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥や、ホールなどにソファを置き気の合う方々で座れるように工夫したり、ソファをベットに替えてすぐに休めるように工夫しながら支援させて頂いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が家庭で使っていた物を持って来て頂き落ちついた気持ちで過ごせるように工夫している。	テレビや椅子、人形など使い慣れた馴染みの物で、その人らしい居室となっている。換気や湿度管理を行い、和風の電気が落ち付いた空間となっている。自宅との環境に差異がないよう、また安全に配慮し居室作りをしている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が安全に暮らせるよう、入居者様の状態にあわせて危険と思われる事があれば、その都度検討して支援させて頂いている。		